

技術サロンは、会員による活動グループ（登録 G）「技術者を目指す女子学生を支援する会（Women Professional Engineers Task Force)WPETF} により平成 20（2008）年 11 月より、首都圏等で開催して来ました。平成 23（2011）年 3 月男女共同参画推進委員会設置により委員会の活動として引き継がれました。

以下の「技術サロン参加学生からの感想」は、特定非営利活動法人女性技術士の会の東北支援事業により招待している、主に福島県に学ぶ理工系の女子学生からのメッセージで、同法人ニュースレターより転載したものです

Vol.12 2012/8/31

技術サロン参加学生からの感想

■ 鈴木悠さん（福島工業高等専門学校専攻科） 「前進」

今回の技術サロンを通して、技術士という資格がどういったものなのかという理解を深めることができ、とてもよい経験になりました。

参加する前は、技術士の資格について延々と説明を受けるのかなと意気消沈していたのですが、そういったこともなく、有意義な時間を過ごすことができました。JABEE 課程を修了していれば技術士の一次試験が免除されたり、技術士の資格を持っていることによって金銭面や処遇に関して優遇されるケースがあったりと、初めて知ることばかりで勉強になりました。

特に、技術士の資格を取ることによって、自分の能力に自信を持つことができ、さらに他の人にアピールできるという点に魅かれました。また、工業系の会社で働いている女性の先輩方の話を聞くことができたのはよかったです。女性の立場は改善されてきているようですが、実際に働いている女性の中には認められていないという人もいて、いろいろな意見が出てきましたが、先輩方の励みの言葉には、私も味方を得ることができたような気分になりました。仕事のことに限らず、家事との両立の大変さについても伺って不安にもなりましたが、同時に、これまで両立をさせてきている方々がいるのだから、きっと大丈夫だという安心感も得ることができました。



2011 年 3 月 11 日はちょうど謝恩会が開かれる予定で、実行委員だった私は学校で準備をしていました。その最中、長い余震の後に立っているのが困難になるほどの強い揺れが起こりました。そのときはただただ怖かったです。幸い、学校や私の自宅への被害は少なく済みましたが、卒業式は中止となり、学校の多くの友達とお別れのあいさつもできないまま離れ離れになってしまいました。今もそれが残念でなりません。学校もいつ始まるのかわからない状態で、不安な避難生活を過ごしていました。今では落ち着きを取り戻し、帰省してきた友人たちと会える機会も増え、卒業式ができなかった分、元クラスの結束力が強固になったようにも思えます。

働いている友人たちの話を聞き、やはり工業系の職場に就いている女性の立場はまだまだ弱いのだなという印象を受けました。化学の分野で技術士の資格を取得している人は、土木系に比べてとても少ないようですが、資格を取ることによって能力を認めてもらえるなら、私も挑戦してみよう！と意気込んでいる今日この頃です。（NPO震災復興支援事業により第 10 回サロンに参加）

技術サロン参加学生からの感想

■ 平澤 英里さん（福島工業高等専門学校専攻科） 「技術サロンでの意見交換会」

私が技術士について知ったのは、ほんの数か月前のことでした。その後すぐ、先生から技術サロンへのお誘いを頂き、今回のサロンに参加することができました。

技術サロン前日、幸運にも学校で技術士の説明会がありました。技術士がどのようなものなのか、ある程度の知識を得てから参加できたことにより、当日の交流会をより有意義に過ごせたように感じます。

当日は参加者同士の交流を深めるためのゲームを行ったりと、私が予想していたものに比べ和やかなものでした。特に、自分の相談と悩みをメモに書き、それについて意見やアイデアを頂けたのは大きな収穫でした。

私からの質問と悩みは「普段の勉強時間と研究時間はどの程度か?」、「所属の性質上、どうしても世界が狭まってしまう」の2つでした。始めの質問をした理由は、先生方から高専はぬるい、君たちは勉強しなさすぎる、世の大学生はこんなものではないとよくお叱りを受けるからです。そこで他の参加者の方からお話しを伺ったのですが、他の方の実施時間はどれも私が実際に行っている時間よりもはるかに長いもので、自分の研究不足を痛感しました。交通機関などの理由もあり、今すぐ他の方のように遅い時間まで研究をすることは無理でしょう。しかし今以上に研究の時間をとるよう努力することを決意しました。

次の悩みでは、このサロンへの参加が世界を広げる第一歩になるのでは?とだけ言っていました。また、これから社会に出ていけば自ずと世界が広がるし、自分の努力次第で学生のうちでも世界を広げることができる、とアドバイスを頂きました。

他の方の質問や悩みも共感できるものが多かったです。印象に残ったのは30歳の自分に対してどのようなビジョンを持っているかという質問です。これを聞いたとき、かつて先生にも同じことを聞かれ、答えられなかったことを思い出しました。多くの方の解答は「学生時代はあまり考えていなかった。会社に入ってから考え出した。」というものでした。他の方のアドバイスを参考に私の30歳についても一度考えてみたところ、海外という言葉が頭に浮かびました。あまり明確なビジョンではありませんが、30歳までに一度海外に行き、仕事をしてみたいです。

また、男の人の中でどのような振る舞いをすればいいのかという質問もありました。これは理系、特に工業系に所属する女性なら一度は悩むことなのではないでしょうか。このとき聞いた、その集団の中で自分がどうあるべきかを考えて行動すればよい、というアドバイスが印象に残っています。これは質問のような状況に限らず、集団の中で生きていく上で大変重要なことだと感じました。私自身、同じような悩みを持ち、今現在少しだけ新しい環境でどのようにふるまうべきか悩んでいました。しかしこの言葉が私に解決の糸口を与えてくれたように感じます。

ハウレンソウのコツや、後輩への指導の仕方なども参考になりました。社会に出て、実際に教える立場にある方々からのアドバイスだったため、どれも説得力がありました。質問をする場合は自分である程度考え、答えをきちんと持つこと。報告をする場合は、結論を簡潔に伝えること。特に後者は今までほぼできてなかったように思うので、今日から心がけるようにします。

今回の技術サロンで感じたことは、何においてもすべては自分次第ということです。それこそ「自分がどうあるべきか」。どんな自分になりたいか、そのためにはどのように努力すべきか?それらの点を明確に捉え、行動に移すことが大切だと実感しました。また、多くの方と交流を持つことにより、それらを実行するモチベーションを保つこともできると感じました。

技術サロン参加学生からの感想

■ 三浦めいさん（福島工業高等専門学校専攻科） 「技術サロンの感想」

今回の技術サロンに参加して、技術士についてのお話や働く女性のお話を伺うことができ、とても良い経験になりました。技術サロンでは、技術士についての説明のみではなく、自己紹介や意見交換などによって参加者の方々とお話しする機会があったので、参加者の方々と交流ありつつリラックスした気持ちで技術士について知ることができ、充実した時間を過ごすことが出来ました。



正直に申し上げますと、技術サロンに参加する前は「技術士」とはモノづくりを行う人のための資格だと思っていたので、自分とは遠い存在というイメージを持っていました。私はビジネス系の学科で経営や経済の勉強をしており、授業の中で実際にモノづくりを行うことはほとんどないため、「技術士」の資格は私の学習している分野にはあまり関係していなかったと思っています。

しかし、「技術士」の中には様々な分野もあるということや、理系・文系という枠にとらわれず技術士の資格を取得している方も多いということを知りました。そして、技術士の資格についてさらに興味を持ちました。

技術士の資格を取得することによって得られるメリットも多いということが知れてよかったです。実際に技術士の資格を取得した方々が実感しているメリットとして、社会評価の向上による「信頼性の向上」や、「交流による人脈の拡大」が挙げられているということを知り、知識の習得のみならず自分自身を向上させる様々なメリットが得られるということに対して大変魅力を感じました。技術士の資格を取ることによって、自分自身を向上させることができ、さらに社会に貢献できる機会が増えることはとても素晴らしいことだと思いました。

また、技術士の資格は国際的に通用するということを初めて知り、「技術士」の資格の素晴らしさを改めて感じました。しかし技術士の数は増えている一方で、欧米に比べて日本人の技術士は少ないということや、女性技術士は男性技術士よりも取得者及び受験者が少ないということも知りました。日本企業は素晴らしい技術を世界に提供しているので、さらに技術士が増えると、より日本企業が世界で認められ向上していくのではないかと思います。そして、女性の技術士がより増えたならば、女性ならではの視点を活かして工業が発展していくことも考えられるのではないかと思います。技術士について興味を持つ人や、技術士を目指す人を増やすためには、まずは技術士の認知を広めることが大切だと思うので、今回の技術サロンのように気軽に技術士についての理解を深められる場が増えたら、良いのではないかと思います。

今回の技術サロンにおいて、技術士の方や女性技術士を目指して努力している方とお話しすることができ、向上心を持って努力することや目標に向かって頑張ることの素晴らしさを改めて感じました。「女性だから」「子供がいるから」などと言って夢を諦めてしまうことなく、目標に向かって努力を重ね、自分の道を広げている女性がたくさんいるということを知り、私も自分の目標に向かって諦めないで努力する姿勢を大切にしたいと思いました。

今回の技術サロンに参加させていただいてよかったです。充実した時間を過ごすことが出来ました。技術サロンで得たものを今後の就職活動や社会生活に活かしたいと思います。貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

技術サロン参加学生からの感想

■ Y・Oさん（福島大学） 「技術サロンに参加して」

私は技術サロンに参加して本当によかったと思っています。技術士という仕事や資格について学べただけでなく、技術士の方や技術士を目指して頑張っている方たちにお会いしてお話を聞いたことは、とても刺激的でした。技術サロンに参加されていた方は、真剣で、向上心に溢れていました。私は誰かとお話をしただけで、こんなに自分の意識が高まるような経験はしたことがありません。また、技術サロンはとてもアットホームな雰囲気、居心地の良い場がつけられていました。そして、技術士の方たちは、質問などについて丁寧に教えてくださり、技術士を目指している人を本当に応援してくれているのだと感じました。技術士の資格は取得するまでに実務経験が必要ですし、簡単に取れるものではありません。ですが、それだけの努力をして取得する価値はおおいにあると思います。

正直、私はそれまで技術士のことについてあまり詳しく知りませんでした。興味はあるけど難しそうだから、というのが理由で敬遠しがちだったためです。ですが、思い切って技術サロンに参加してみて、技術士になることや技術士の仕事がいかに大変かが改めて分かったと同時に、とてもやりがいがあり、社会に貢献できる職業なのだと分かりました。技術士には多くの部門があり、意外なところや様々なところで技術士の活躍の場があるのだと感じました。実際に参加されていた方たちも色々な業界の方たちでした。私ももし技術士の資格を取ったら、どの業界に就職したとしても生かすことができるのではないかと、技術士の一次試験に向けた勉強を始めたいなと思いました。

そして思っていた以上に女性の技術士が少ないことを知りました。その数少ない女性の技術士の方たちにお会いできたことはとても光栄に思います。お話を聞くと、お忙しくしており、睡眠時間がとても短いことに驚きました。しかし、そんな中でも生き生きとしていて、技術士の仕事に誇りと責任を持っていることが見て分かりました。その姿に感銘を受け、技術士に魅力を感じ、自分もこんな風に仕事がしたい、と強く思いました。自分の仕事に誇りを持って取り組み、その上で社会に貢献する姿は素晴らしいです。

技術サロンに参加していた女性の技術士の方、目指している方、皆さんが仕事に対する意識が高く、私がこれから就職をする上での心構えのようなものを教えていただきました。真剣に取り組み、誇れるような仕事がしたいと強く思いました。そして、自分がどんな風に社会に貢献していきたいか、考えるきっかけにもなりました。就職した際には、この技術サロンで感じたことを忘れずに、仕事をしていきたいです。中には、家庭をお持ちで子育ても大変な中、仕事や資格の勉強に熱心に取り組んでいらっしゃる方がいて、すごいと思いました。いつか私も家庭を持つことができたら、うまく仕事と両立させていきたいと思っています。今回の技術サロンでの出会いは私にとってかけがえのないものとなりました。何かをするために何かを諦めるのではなく、やりたいことはすべて頑張ってみせる、という強い気持ちでこれから生きていきたいと思っています。

技術サロン参加学生からの感想

■ 野田真優子さん（福島大学） 「技術サロンに参加して」

福島大学の野田真優子です。私が技術士という資格のことを知ったのは大学一年生の時で、そのころから技術士のことについて少し興味を持っていました。一次試験を受験したことは無かったのですが、ずっと技術士がどのような仕事をしているのかなど具体的なことが知りたいと思っていたため、今回のお話を先生からうかがった時はとても嬉しかったです。

実際に技術サロンに参加させていただき、緊張もしましたが思っていたよりももっと濃い時間を過ごすことが出来たと感じました。もともとお聞きしたかった技術士のことをお聞きできたのはもちろんのこと、一緒に参加していた女性社会人の方にリアルな話をお聞き出来たのもその理由の一つです。

技術士のことについては、実際にどのような活躍をされているか、会社の中でどのような役割をされているのかを聞くことが出来ました。技術士という資格を持っている人がいないと成り立たない会社があることや、退社してからも技術士という資格を活かして市民の間で一役買うなどのお話を聞いて興味深かったです。やはり実際にお話を聞くといろいろと想像しやすく、技術士という資格を持つ人が社会でどのように活躍をしているのかを今までより理解できたと思います。実際にどのような活躍をしているか想像できなかったときは試験の内容も簡単ではないため、勉強のモチベーションもなかなか上がりませんでした。しかしこの機会を通じて、自分も頑張ってみようと思えるようになりました。また今回の技術サロンに参加して、知りたいと思った時にその場で質問ができてとても嬉しかったです。私の場合は技術士の資格を持っている知り合いもいないので、技術士のことについて疑問を持った時にその疑問を結局解消できないこともありました。今回同じように参加していた方々も、技術士について様々な疑問やお聞きしたいことがあったようです。きっと様々な疑問を持っている人がまだたくさんいると思うので、このような機会をもっと多くの人を知ることができればと感じました。

また技術士についての疑問や悩みを解消するとともに、それらの悩みを周りの人と共有できるということも自分の中の世界を広げることにつながりよかったです。特に社会に出た女性たち特有の悩みなどは、学生にとってはあまり感じたことのなかったことも多くて驚きました。なんだか自分がいかにせまい世界の中でしか過ごしていないのかを気づかされた気がします。このような学歴も年齢も関係なく技術士の資格を目指している人が集まるというのは、だれにとってもプラスになることなのではないかと思いました。これを機に、もっと広い視野をもって様々なことに目を向けていけるようになりたいです。

今回の技術サロンが終わって振り返ってみると、技術士のことを知ることができたということもさることながら新しい縁や考え方など、ほかにも大きなものを得ることができたことに気が付きました。この貴重な経験をきっかけとして、今後いろいろなことに挑戦していったり試験勉強を頑張っていきたいと思います。